

Exercise_s7:浅い海洋に関する問題 7

♪ カッコ内の語句の中で最も適切なものはどれか答えなさい。

1. “The tragedy of the commons”は、自由にアクセスできる (共有地、牧草地、牛) を身勝手に使うと、全員が悲劇的な結果に陥る事を示し、地球環境問題の考え方としてしばしば引用される。
2. (南太平洋、北太平洋、大西洋) のイースター島では、ある時期繁栄を謳歌していたが、無計画な資源消費によって、人類同士の共食いに至る悲惨な歴史がある。この悲劇は、自分たちの帰属する空間が (解放系、閉鎖系) との認識を欠いたためだ。
3. タンカー事故に直面したときシルビア・アールは、“時として、(皮肉なことに、うれしいことに、悲しいことに)、私たちがとるべき行動は (最善と尽くす、みんなで助け合う、何もしない) 事だ” とのべた。
4. プラスチックゴミは、洋上を漂う過程で紫外線等によって (破壊、結合、膨張) が進むため、より効率よく (有害物質、栄養塩類、塩分) を濃縮し、生態系への影響が認められる。
5. ラパ・ヌイ島とは、(ハワイ、イースター、グアム) 島の現地名であり、1200 年前に (メラネシア、マイクロネシア、ポリネシア) 中央部に進出した (縄文人、ラピュタ人、ラピタ人) によって開発されたと考えられている。
6. ラパ・ヌイ島崩壊の歴史を (ルビー、サファイヤ、ダイヤモンド) は、(ネズミ、エル・ニーニョ現象、寒冷な乾燥気候) にその原因を求めた。
7. 海に到達したプラスチック類の多くは、分解が進めないため (10 日くらい、一年くらい、10 年以上) 海中を漂う。このようなプラスチックゴミを減らすためには、年間生産量 (と等しい、よりも少ない、を上回る) 回収が必要である。
8. 海洋に排出された有害物質は、食物連鎖に伴う (生体濃縮、希釈、遺伝) を経て、危険量に達することがしばしば報告されている。DDT などの例では、最終的に海水に比して約 (1000、100000、1000000、10000000) に濃縮する。
9. 海洋に排出される原油として、一番多いのが地層からで、二番目は、(オイル探掘、原油輸送途中、石油消費) である。
10. 海洋を漂うプラスチックゴミの大部分は、(海上投棄、津波、河川) によってもたらされる。それは、陸上に投げ捨てられた小さなゴミが世界規模で排出されるからであり、先進国であっても下水は (分別式、分流式、分解式) であるため、河川に直接ゴミが流れ出てしまうため、ポイ捨ては海を汚す原因となる。
11. 海洋汚染の原因物質は、(陸、大気、船舶、海洋投棄、海洋掘削) から約 44%もたらされており、33%が (陸、大気、船舶、海洋投棄、海洋掘削) からもたらされる。つまり、陸上における人間活動が主要因である事がうかがい知れる。
12. 環境基準値以下の海域に生息する魚介類なら、生体濃縮による危険性を考える必要はいない (と言える、とは言えない)。生体濃縮による有害物質の増加は、時には (10 倍以下、1000 倍程度、100 万倍以上) に達し、危険だ。
13. 共有地の悲劇は、人口増加に対する地球環境の悪化を訴えており、(技術的な解決、神の見えざる手、公的利益の向上) は無いと (アダム、クライブ、ギャレット、ジャレッド) は結論した。
14. 熊本県の水俣でも、生体濃縮した (DDT、メチル水銀、アミノ酸) を知らずに摂取した住民やその子孫が被害に苦しんでいる。(御用学者、御用商人、製薬業界) と思われる大学教授の誤った行動によって被害が拡大したとささやかれている。
15. 紫外線等により微小な破片となったプラスチックゴミは、海中を漂っているときに (栄養塩類、有害物質、酸素) を濃縮し、生態系にとって多大な影響をおよぼすと懸念されている。
16. 水俣病は、(新潟、福島、福岡、熊本) 県で起きた海洋汚染による公害病で、(DDT、PCB、メチル水銀) が生体濃縮したため、(癌、肝機能障害、中枢神経障害) を発症した。世界ではメチル水銀による被害が続いており、胎生水俣病の発症を懸念して (安い、外国産の、食物網上位の) マグロなどの摂取量に警鐘が鳴らされている。
17. 大洋を漂う沈まないプラスチックゴミは、小魚のように見えるため、誤認した海鳥が誤飲してしまい、毎年 (10 万羽、100 万羽、1000 万羽) 程度が命を落としていると試算されている。また、ウミガメも (空き缶、シックスパック、レジ袋) をクラゲと誤認し、消化不良の末、絶命する個体が後を絶えない。

18. 稚魚や小動物のゆりかごである湿地やマングローブの森は、社会生活の近代化とともにその面積を (増やしている、減らしている、維持されている)。
19. 陸上から排出された多くのごみは、海流に乗って堆積しつつある。北太平洋上にある太平洋ごみベルトもそのひとつであり、英語では (**Pacific garbage belt, Great Pacific garbage belt, Great Pacific garbage patch, Pacific garbage great belt**) と呼ばれている。海洋には、毎年 500～1300 (トン、万トン、億トン) ほどのプラスチックゴミが追加され続けている。